様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年４月８日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：2008～2009
課題番号：20810035
研究課題名（和文）　昭和期日本の文化政策と韓国への影響
研究課題名（英文）　Japan's Cultural Policy during the Showa era and its Impact on South Korea in a Transnational Context

研究代表者
朴　祥美（PARK Sang Mi）
早稲田大学・高等研究所・助教
研究者番号：50508447

研究成果の概要（和文）： 本研究は昭和期日本の文化政策の歴史的経緯を検討し、また、日本の文化政策の方法論を韓国が導入した背景まで視野に入れることによって、アジアにおける文化政治論を豊かにする。

研究成果の概要（英文）： This research examines the historical process of Japan's promotion of cultural policy in the era of Showa, and contributes to a better understanding of the discourse of cultural politics in Asia by expanding the discussion to include the way in which the South Korean government adopted the methodology of Japan's cultural policy.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,330,000	399,000	1,729,000
２００９年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,530,000	759,000	3,289,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：地域研究
キーワード：文化政策、昭和日本、韓国

１．研究開始当初の背景

申請者は、この研究テーマに着手するにあたって、1970―80 年代から日本が経済大国になるにつれ浮上した文化論に注目してきた。当時、政府レベルでは「文化日本」というスローガンを立ち上げ（大平、中曽根首相の国会演説文）、他方、国民の間では日本人論や日本文化論（Harumi Befu による研究）が大流行した。

そのような文化論の登場は、戦後日本の驚異的復興に対する世界からの注目と日本人の自負心、そして国際社会において高まる、日本の国際貢献への要求等と相関している。

一見、国際的影響力や経済力の表象として取られやすい「文化」であるが、本研究はそれを歴史的ディコースの産物として理解す

る。

２．研究の目的

日本の文化政策史はトランスナショナルな文脈からの考察なしには語られず、日本は、文化政策のモデルとして、戦争期にはナチスに例を習い、占領期にはアメリカと文化的競争を行い、また自らの経験を韓国に教えた。

本研究はいわゆる「独特な日本文化」というような、アプリオリによって規定されたイデオロギーに挑戦し、一瞬、一国にユニークな現象と見える「文化」というものが実は近代諸国との関係から「政策」としてプロモーションされ、多くの思想や形式を共有していることを論ずる。

３．研究の方法

［１］学会発表

国内学会においては、早大高等研究所や他研究科・大学院等にて発表を求めた他、東大情報学環の大学院ゼミや、日本文化政策学会、その他さまざまな研究会に積極的に参加した。

また、国際学会においては、アメリカの「歴史学会」「アジア学会」「歴史社会学会」や、韓国の「日本史学会」にも参加、研究成果を発表した。

［２］出版

英文および和文の学術雑誌に投稿し、研究協力者からコメントを取得するなどの小成果を重ねることによって、本研究の大きな論点をも改めて絞り重ねることができた。こうした活動は単行本出版という本研究の最大目標を達成するための過程と言える。

［３］海外調査

欧米・アジアにおける文化政策者、歴史学者などとのアイディア交換、連携活動を行ったが、アジア歴史研究における国際的スカラシップの更新はまさに学際性・国際性を特長とする本研究の意義でもある。

４．研究成果

［１］戦時期対外文化政策

戦時期日本の外務省と国際文化振興会による文化外交政策の特徴や問題点を検討し、さらに、宝塚の海外プロモーションの事例を通じて、文化政策の推進者であった官僚、宝塚のような民間の文化生産者といったような、関係者間の様々な思惑や協力関係を分析した。

また、日本の対欧米文化外交を、対植民地文化政策や崔承喜のアメリカ公演と比較しながら、西洋列強と競争できる、アジアにおける唯一の「進んだ文化」の所有者としてのイメージを、戦時期日本がいかに発信しようとしたかを調査した。

研究成果は、岩波書店より刊行される『思想』に掲載された。

［２］日韓における文化政策の比較

朴正熙統治下の韓国政府が、日本の文化政策を取り入れていく政治的・歴史的過程を分析した。

朴政府は「文化韓国」のスローガンを掲げ、精神動員や国学運動の展開など、様々な「文化振興計画」を推進したが、特に、韓国文芸振興院によるセマウル文化運動は、戦時争期日本の大政翼賛会や戦後の新生活運動と、その思想や形において共有している点が数多くある。

この分析において、第一に、韓国政府が文化政策を取り入れる課程における脱植民地構造の限界や、矛盾した民族主義が伺えた。第二に、韓国側に文化政策の助言を行った日本人政治家、芸術家、思想家の活動やその目的を明らかにした。最後に、ポスト朴時代における文化政策の変容を分析した。

研究成果は、The Journal of Korean Studies に掲載が決定された。

［３］戦時期国民文化運動

戦時にふさわしい国民文化づくりのために展開された、移動文化事業において、関係官僚、民間の文化人、興行会社、そして大衆が、それぞれ何を求めてこの活動に参加し、また、どのような思惑を持って、活動を支持したのかを論じた。

こうした活動の中でも、移動演劇運動は、通常想定される当時の政府による一方的な文化宣伝とは異なり、それを超えた社会関係を重視した施策として注目に値する。

脱営利主義的新体制構想のもとで本来展開されたはずの国民文化振興活動が、結局、大手興行会社からの支援なしには実現できなかったという限界は、現実にはあった。しかし皮肉なことに、大衆の観賞能力と興行団体の状況を考慮した間接統制は、政府をして国民をきわめて巧みに公的場所に招くことを可能にしたのである。

研究成果は、本年度『思想』に掲載される予定である（掲載月未定）。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

① Sang Mi Park, “The Paradox of

Postcolonial Korean Nationalism: State-Sponsored Cultural Policy in South Korea, 1965 to Present," *Journal of Korean Studies* (Seattle: The University of Washington-Korea Studies Program, 2010 Fall) {A&HCI Journal; accepted}. 〔査読有〕

② Sang Mi Park, "The Takarazuka Girls' Revue in the West: Public-Private Relations in the Cultural Diplomacy of Wartime Japan," *The International Journal of Cultural Policy* (UK: Routledge/Taylor&Francis, Forthcoming) {accepted}. 〔査読有〕

③ 朴祥美「〈身体化〉される国民文化―戦時期移動演劇運動の展開を中心として―」『思想』(東京：岩波書店、2010 年掲載予定、掲載月未定)。〔査読無〕

④ 朴祥美「研究動向―崔承喜研究の動向と資料紹介―」『高等研究所紀要』第 2 号(東京：早稲田大学高等研究所、2010 年 3 月)：93-96。〔査読無〕

⑤ 朴祥美「〈近代日本〉を世界に見せる―戦時期対外文化政策と宝塚少女歌劇団の欧米公演―」『思想』no. 1026 (東京：岩波書店、2009 年 10 月)：81-103。〔査読無〕

⑥ Sang Mi Park, "Wartime Japan's Theater Movement," *WIAS Research Bulletin* no.1 (March 2009): 61-78. 〔査読有〕

⑦ Sang Mi Park, "Wartime Japan's Cultural Diplomacy and the Establishment of Culture Bureaus," WIAS Discussion Paper 2008-009, March 2009. 〔査読無〕

〔学会発表〕(計 10 件)

① 朴祥美「高度経済成長期（一九五五－七〇）日本の文化政策」日本文化政策学会 2010 年 1 月 9-10 日.

② Sang Mi Park, "Chŏnjaeng' gi Ilbon ŭi kukmim munhwa undong" (Wartime Japan's National Cultural Movement), The Korean Association for Japanese History, Seoul, December 19, 2009.

③ Sang Mi Park, "Toward a New Cultural State of Japan: Rebuilding the Nation under the U.S. Occupation (1945-52)," The Social Science and Historical Association, in Long Beach, California, November 12-15, 2009.

④ Sang Mi Park, "Cultural Politics and National Cultural Movement in Wartime Japan," Rewriting Modern and Contemporary Japanese Intellectual History: Perspectives of Mobility and Border Crossings, Sendai, Japan, September 25-27, 2009.

⑤ "Propaganda, Public Relations, and Advertisement," The Cultural Typhoon in Tokyo, July 3-5, 2009. (discussant)

⑥ 朴祥美「戦時期日本の文化外交と宝塚少女歌劇団の欧米公演」日本国際政治学会国際交流分科会、2009 年 4 月 18 日.

⑦ Sang Mi Park, "Wartime Japan's Theater Movement," The 61th Annual Meeting of the Association for Asian Studies in Chicago, March 26-29, 2009.

⑧ 朴祥美「戦時期日本の文化政策と国民文化運動」『日本現代思想史研究会』2009 年 2 月 28 日。

⑨ 朴祥美「戦時期日本の国民文化運動」『トランスアジア文化研究会』2008 年 10 月 29 日。

⑩ Sang Mi Park, "South Korea's Modeling of Japanese Cultural Policy," The 60th Annual Meeting of the Association for Asian Studies in Atlanta, April 3-6, 2008.

〔図書〕(計 1 件)

① 朴祥美「観光と記憶―韓国地方都市の歴史跡を中心として―」石田佐恵子外編『ポピュラー文化ミュージアムとは何か―文化の収集・展示をめぐる政治経済―』(東京:ミネルヴァ書房、2010 年秋刊行予定)。

〔その他〕

ホームページ等

http://www.waseda.jp/wias/eng/researchers/plofile/plof_p_sang.html

６．研究組織

(1)研究代表者
朴　祥美（PARK Sang Mi）
早稲田大学・高等研究所・助教
研究者番号：50508447